

大道を歩む

令和六年六月十八日 加茂法話会

柏崎市 花栄寺 九里悠禪

長者窮子（ちようじゃぐうじ）の喩（たとえ）

ある長者の息子が家出をし、五十年流浪した果てに父の元に帰る

法華経 信解品（しんげほん）第四

衣裏繫珠（えりけいじゆ）の喩

友人によって服の内側に縫い付けられていた宝石の存在に気付く

法華経 五百弟子受記品（じゆきほん）第八

不求自得（ふぐじとく）の宝

「私は何も求めること、願うということはなかった。ところが、宝の倉が自然（じねん）に、ひとりでに自分のものになったのだ」

参考図書『現代語訳 大乘仏教2 法華経』（中村元著、東京書籍）